

有限である「言葉」を使いながら、その複雑に組み合わせられた「文字」列たちは、どこまでも増殖し変幻し、まさに無限の様相を呈しています。その千変万化する日本語の豊かさや広がりを目の当たりにして、あらためて私たちの胸中には、先の貫之の言葉がこだまするのを感じます。

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがなを多用し、柔らかな女性的な視覚的效果を狙っていますし、反対に別な作家は難読漢字を多用し、そこに煩雑なほどルビをふり、怪奇で重々しい雰囲気をかもし出しています。有限である「言葉」を使いながら、その複雑に組み合わせられた「文字」列たちは、どこまでも増殖し変幻し、まさに

こころ揺れて、言の葉そよぐ。

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがなを多用し、柔らかな女性的な視覚的效果を狙っていますし、反対に別な作家は難読漢字を多用し、そこに煩雑なほどルビをふり、怪奇で重々しい雰囲気をかもし出しています。有限である「言葉」を使いながら、

やまと歌は、ひとの心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける

その千変万化する日本語の豊かさや広がりを目の当たりにして、あらためて私たちの胸中には、先の貫之の言葉がこだまするのを感じます。「(文学表現はすべてひとの心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける)」と。

有限である「言葉」を使いながら、その複雑に組み合わせられた「文字」列たちは、どこまでも増殖し変幻し、まさに無限の様相を呈しています。その千変万化する日本語の豊かさや広がりを目の当たりにして、あらためて私たちの胸中には、先の貫之の言葉がこだまするのを感じざるを得ません。

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがなを多用し、柔らかな女性的な視覚的效果を狙っていますし、反対に別な作家は難読漢字を多用し、そこに煩雑なほどルビをふり、怪奇で重々しい雰囲気をかもし出しています。有限である「言葉」を使いながら、その複雑に組み合わせられた「文字」列たちは、

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがなを多用し、柔らかな女性的な視覚的效果を狙っていますし、反対に別な作家は難読漢字を多用し、そこに煩雑なほどルビをふり、怪奇で重々しい雰囲気をかもし出しています。

たとえば今、文章読本とか名作アンソロジーといった類の撰集を開いてみると、そこには実に多彩な現代文の形がサンプリングされています。もともと固有の文体を持つ作家たちが、それぞれの作品にふさわしい雰囲気づくりのために、表記や字づらにも精妙な工夫を凝らしているからです。ある作家はひらがなを多用し、柔らかな女性的な視覚的效果を狙っていますし、反対に別な作家は難読漢字を多用し、そこに煩雑なほどルビをふり、怪奇で重々しい雰囲気をかもし出しています。有限

こころ揺れて、言の葉そよぐ。

やまと歌は、ひとの心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける